

「憲法 9 条をまもりたい」シール投票活動に参加

よくテレビのワイド番組で

「街ゆくひとに聞いてみました」っていう「シール投票」、憲法改正問題でそれをやってみようと決まったとき、半信半疑だった。そんな重たい問題に答えてくれるのか。逆にシールなんて少々軽すぎないか、などと思ったものだ。私が参加している「さくら志津憲法 9 条をまもりたい会」の世話人や実行委員の話を何度か聞いているうちに、イヤ、私たちの会の街頭宣伝と思えばいいと考えるようになった。そういえば、会の立ち上げ以来、まだ街頭での活動はなかった。この町にこんな会があって、こんな活動をやっていますよ、皆さんもどうですかと、話しかけたり、チラシを手渡したりするのも悪くはないだろう。今こそ、明日から国会論議が始まるという、2007 年 1 月最後の日曜日、私は、会の仲間と京成ユーカリが丘駅頭に立った。

不機嫌な男たち

リレートークをリードするのはやはり、忙しいなか駆けつけた市民ネットワーク県議の O さん、日本共産党市議 K さん、4 月の市議選に立候補の方や市議 OB である。会派や政党名はなしだけど、名前ははっきり名乗ってください、との打ち合わせもあった。しかし、チラシを渡そうとした年配の男性から「まったく、選挙が近くなると、こんなことを決まってやりだすのだから・・・」と舌打ちをされた。私は追いかけるように「いえ、この会は、昨年早くから立ち上げた・・・」と話しかけるのだが、その足の速いこと。

たしかに、そんな雰囲気の不機嫌そうな年配の男性や女性は多く、チラシに手を出そうともしないし、視線を合わせることもない。受け取りを拒む人たちが手を振るしぐさは、私が武富士やアイフルのティッシュを断るときの手つきに似ている。少々落ち込んでいるときに、「おたくたち、何？憲法改正にはオレも反対。昭和 19 年生まれだけど、おたくもそのくらい？」「まあまあそんなもんです」とごまかすが、市議会や市役所に不満をお持ちのようで「議員は金が欲しくてやってるんじゃないの」「そんな方ばかりではありませんよ、今日もいくつかの党の議員が参加しています」と会のニュースのバックナンバーも渡す。それから 60 代かそれ以上の年配の方たちの反応が多かった。シール投票はしなかったが、ペットボトルを取り出して、植え込みのへりに座り込んだ男性には、私も隣に座って「読んでみていただけますか」とチラシを渡す。「あんた達、共産党？」「いや、いろいろな方が参加していますよ。憲法 9 条を守りたいのです」といえば、「まあ、がんばってよ」と。

憲法って学校で習った？

駅と商業施設を結ぶ陸橋は待ち合わせの場所としても定着しているらしい。ワーナーマイカルやスーパーに向う人、駅へと急ぐ人、休日なので家族連れや若いカップルも多い。誘いにのってパネルの前に来た 2 人連れの女の子、「憲法って学校で習った？」「憲法を変えようという人たちがいるけど知っている？」どちらにもニコニコして「ウン、ウン」とうなずき、たよりなげだが、「戦争をしないっていう憲法 9 条をまもるのか、変えたほうがいいのか、どう？」といい終わらないうちに「反対」にシールを貼っていた。小学校 6 年生だそうだ。寒いのにフリースの前をはだけて、ピアスが目立つ高校生くらいの男の子も素直にパネルの前に立ち、「改正には反対」という。「一番の理由はなんだろう？」と聞いてみてもはっきりした言葉が返ってこない。「戦争はいやだものね」と、ついダメ押しをしてしまったのだが、もう少しゆっくり話したかった。シール投票の終りがけ、駅の方から駆けてくる女の子に、どこから飛び出してきたのかその男の子が迎え、連れ立って階段を下りていったのが目にとまった。(2007 年 1 月 30 日)